

**Microsoft®
Windows Server™ 2003 R2,
Standard Edition/
Microsoft®
Windows Server™ 2003 R2,
Enterprise Edition**

**インストール補足説明書
for Express5800/120Ba-4**

はじめに

本手順書は、**Windows Server 2003 R2 for Express5800/120Ba-4対応NEC差分モジュール**を使用して、「Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard Edition / Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版」(以降、「Windows Server 2003 R2」と呼ぶ)をインストールする方法について記述しています。

Windows Server 2003 R2 をインストールする前に、必ず最後までお読みください。

注意 Windows Server 2003 R2 for Express5800/120Ba-4 対応 NEC 差分モジュールは、Express5800/120Ba-4 対応の専用モジュールです。他の装置ではご使用できません。

■ Windows Server 2003 R2へのアップグレードについて

Windows Server 2003 からWindows Server 2003 R2へのインプレースアップグレードは、ファイルやレジストリを上書する場合がありますため、システムやアプリケーションへ思わぬ影響を与える可能性がありますので、推奨しません。

Windows Server 2003 R2をご使用になる場合は、「Windows Server 2003 R2のインストール」を参照し、事前に必要なユーザデータのバックアップを取り、Windows Server 2003 R2をインストールしなおしてください。

ヒント インプレースアップグレードとは、既にインストールされている Windows Server 2003 自身を Windows Server 2003 R2 へ上書きアップグレードすることです。

■ Windows 2000 からWindows Server 2003 R2 へのアップグレードインストールについて

アップグレードする場合は、以下の点に注意してください。

- アップグレードインストールを行う場合は、アップグレード対象のOSを格納したパーティションに、空き容量が必要です。空き容量が不足している場合には、不要なファイルを削除するなどして、空き容量を確保してください。
Windows 2000からアップグレードインストールを行う場合、Windows Server 2003を運用するうえで必要なパーティションサイズは、Windows 2000を格納したパーティションに加え、約1.25～2GB以上の空き領域が必要です。
- Windows 2000からアップグレードインストールを行う前に、システムにPROSet IIがインストールされている場合は、PROSet IIを削除してから、アップグレードを始めてください。Teamingの設定がされている場合は、Teamingを解除してからPROSet IIを削除してください。

- アップグレードインストール中、以下のような「ディスク挿入」のポップアップメッセージが表示された場合は、[キャンセル]をクリックしてください。

<ディスクの挿入>

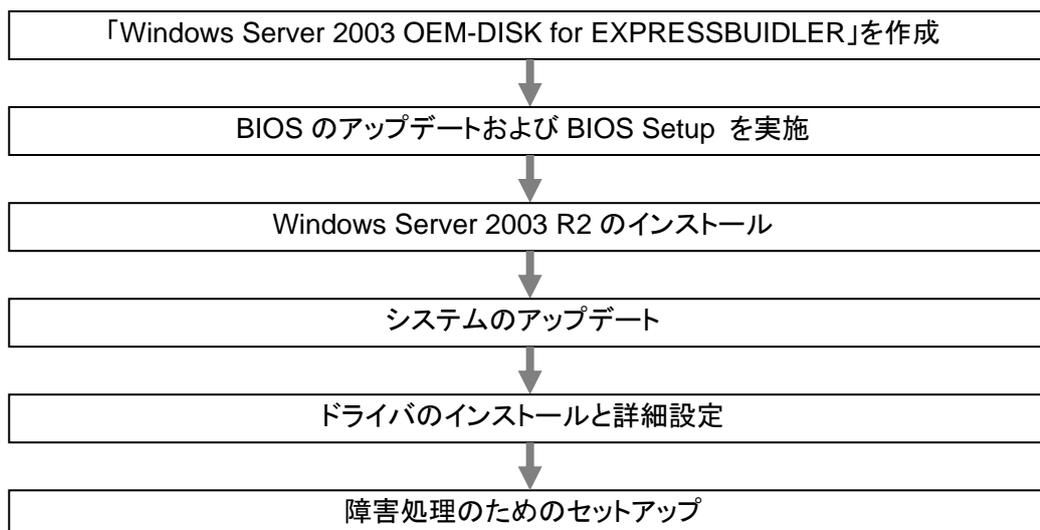
'Intel PRO Adapter CD-ROM or floppy disk'のラベルの付いた CD を CD-ROM ドライブに挿入して、[OK]をクリックしてください。フロッピーディスクなど、別の場所からファイルをコピーする場合も、[OK]をクリックしてください。

- オンボードLANの最大転送速度が1Gビット(1000Base)をサポートしている装置の場合、システムのアップデート後、PROSet の詳細設定でのジャンボフレームの値と、ネットワークアダプタのプロパティダイアログの詳細設定でのジャンボフレームの値を確認し、値が異なる場合は、ネットワークアダプタのプロパティダイアログの値をPROSetと同じ値に変更してください。
- ターミナルサービスクライアントからのアップグレードインストールは行えません。必ずローカルでCD-ROMドライブ・フロッピーディスクドライブを使用できる状態にしてからアップグレードインストールを始めてください。

CPU ブレードに N8460-001 外付 CD-ROM を接続してアップグレードインストールをする場合は、Windows Server 2003 のインストール作業中に N8460-001 外付 CD-ROM のドライバを必ず最初にインストールしてください。

Windows Server 2003 R2 インストール手順概略

Windows Server 2003 R2 のインストール方法概略図を以下に示します。



Windows Server 2003 R2 をインストールするための準備

■ インストールに必要なもの

Windows Server 2003 R2 インストールを開始する前に、以下の媒体と手順書がそろっていることを確認してください。

- **Windows Server 2003 R2 for Express5800/120Ba-4 対応 NEC 差分モジュール**（以降、「NEC 差分モジュール」と呼ぶ）

『NEC8番街』 <http://nec8.com> →

[サポート情報] → [ダウンロード(Express5800)]を参照し、入手してください。

- **Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER**
（または 1.44MB フォーマットの 3.5 インチフロッピーディスク1枚）
作成方法は“「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成”（本書）を参照してください。
- **Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard Edition / Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise Edition インストール補足説明書 for Express5800/120Ba-4（本書）**
- 次のいずれかを用意してください。
 - －バックアップ CD-ROM Windows Server 2003 R2, Standard Edition DISC 1
（以下、「バックアップ CD-ROM」と呼ぶ）と
Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard Edition DISC 2 (2 枚組)
（以下、「Windows Server 2003 R2 DISC 2」と呼ぶ）
 - －バックアップ CD-ROM Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition DISC 1
（以下、「バックアップ CD-ROM」と呼ぶ）と
Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition DISC 2 (2 枚組)
（以下、「Windows Server 2003 R2 DISC 2」と呼ぶ）
 - －Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard Edition DISC 1
（以下、「Windows Server 2003 CD-ROM」と呼ぶ）と
Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard Edition DISC 2 (2 枚組)
 - －Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition DISC 1
（以下、「Windows Server 2003 CD-ROM」と呼ぶ）と
Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition DISC 2 (2 枚組)
- Express5800 シリーズをお買い上げ時に添付されているもの
 - － **EXPRESSBUILDER CD-ROM**
 - － **ユーザーズガイド**
（EXPRESSBUILDER CD-ROM 中のマスターコントロールメニューから「オンラインドキュメント」を参照してください）
 - － **ブレード収納ユニットユーザーズガイド**

ヒント

フロッピーディスクなどを用意していただく必要がある場合があります。詳細はユーザーズガイド(「ローカルインストールに必要なもの」)を参照してください。

■ NEC 差分モジュールのダウンロードについて

「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成する場合や、「システムのアップデート」を行うときは、あらかじめ以下の手順で Express5800/120Ba-4 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。

- (1) 次の URL の OS 関連のページを参照し、Express5800/120Ba-4 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。

『NEC8番街』 <http://nec8.com>

→ [サポート情報] → [ダウンロード(Express5800)]

- (2) モジュールをダウンロード後、ハードディスク上の任意のフォルダに展開する。
(例:C:¥TEMP)

注意 ダウンロード先のフォルダには、空白文字を含むフォルダは指定できません。

■ 「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成

インストールを始める前に「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるフロッピーディスクが必要です。

以下の手順にしたがって作成してください。

ヒント 「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」(本装置用)を作成済みの場合は、再度 作成する必要はありません。

次の手順で作成します。

- (1) 1.44MB フォーマット済み 3.5 インチの空フロッピーディスクを1枚用意する。
- (2) オペレーティングシステム(OS)を起動する。
- (3) NEC 差分モジュールをダウンロードする。
(「NEC 差分モジュールのダウンロードについて」(本書)参照)
- (4) フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクをセットする。
- (5) 以下のフォルダ配下の全ファイルをフロッピーディスクにコピーしてください。

<展開先フォルダ名>¥WINNT¥OEMFD¥DOTNET¥FD1

コピー終了後、
「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成は完了です。

作成した「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」は、ライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

注意事項

Windows Server 2003 R2 をインストールする前に注意事項をよく読んでください。

インストールを始める前に、ブレード収納ユニットにキーボード・ディスプレイ装置・CD-ROMドライブ・フロッピーディスクドライブなどが正しい構成で接続されていることを確認してください。接続されていない場合は、必ず接続してください。

■ SystemGlobe DeploymentManager Liteを使ったセットアップ

SystemGlobe DeploymentManager Lite に添付のドキュメント「SystemGlobe DeploymentManager Lite ユーザーズガイド」を参照して、再セットアップをしてください。

<EXPRESSBUILDER CD-ROM>:\\$DPML\\$MANUAL\\$users_guide.pdf

■ ライセンス認証の手続きについて

バックアップCD-ROMを使用する場合、ライセンス認証済みの状態でインストールされます。その他のOS CD-ROMを使用する場合、Windows Server 2003 R2のライセンス認証の手続きが必要です。手続きを行う際に使用するプロダクトキーは、Windows Server 2003 R2に含まれるCOAラベルに記載されたものと一致させる必要があります。

- 重要**
- インストールしてから 30 日以内にアクティベーションを行ってください。30 日間を過ぎると、システムがロックされる場合があります。
 - COA ラベルは本体に貼り付けられている場合があります。

■ ダイナミックディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクにアップグレードしたハードディスクドライブに再インストールする際、OSをインストールするパーティション以外にパーティションが存在し、そのパーティションを残したい場合は、次の点について注意してください。

- OSをインストールするパーティションには、前にOSをインストールしていたパーティションを選択してください。
- OSパーティションのフォーマットについては、「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択してください。

■ BIOSのアップデート

Windows Server 2003 R2 をインストールするためには、EXPRESSBUILDER CD-ROMを用いて、Windows Server 2003 用のBIOSのアップデートが必要な場合があります。BIOSのアップデートが必要かどうかは、『NEC8番街』 <http://nec8.com> → [サポート情報] → [ダウンロード(Express5800)]を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。また、アップデート手順に関しては、各装置のBIOS ダウンロード時の紹介文、およびダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。

■ 作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ
+ アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ = 3500MB (Windows Server 2003 R2)
= 3500MB (Windows Server 2003 with Service Pack1)
ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB
アプリケーションサイズ = 任意

重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合がありますため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は、「2048MB+12MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

$3500\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 12\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ} = 4792\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

- (1) 「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」を設定する。
- (2) 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

1 Windows Server 2003 R2 のインストール

ここでは、Windows Server 2003 R2 のローカルインストールと Windows 2000 から Windows Server 2003 へのアップグレードインストールについて説明します。

■ Windows Server 2003 R2 のローカルインストール

次の手順に従ってインストールします。

1. 電源を ON して CPU ブレードを起動する。

重要 Windows Server 2003 用の BIOS のアップデートが必要な場合は、アップデートを行ってください。BIOS のアップデートが必要かどうかは、『NEC8番街』<http://nec8.com>→[サポート情報]→[ダウンロード(Express5800)]を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。

ディスプレイ装置の画面に POST (Power On Self-Test) の実行内容が表示されます。(「NEC」ロゴが表示された場合は<Esc>キーを押してください。)しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> to enter SETUP

2. <F2>キーを押し、BIOS Setup メニューの「Advanced」→「Installed O/S」を「PnP O/S」に設定する。設定方法は機種によって異なりますので、詳しくは装置の BIOS ダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。
3. BIOS Setup メニューの「Exit」→「Save Changes & Exit」を選択し、[Yes]を選択してシステムを再起動させる。
4. バックアップ CD-ROM または Windows Server 2003 R2 CD-ROM を CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブにセットする。
5. バックアップ CD-ROM または Windows Server 2003 R2 CD-ROM を CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブにセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+キーを押す)か、電源を OFF/ON して CPU ブレードを再起動する。

重要 ハードディスク上に起動可能な OS がインストール済みの場合は、画面上部に「Press any key to boot from CD...」が表示されている間に<Enter>キーを押してください。起動可能な OS が存在しない場合は不要です。

CD-ROM からシステムが立ち上がり、CPU ブレードが起動します。

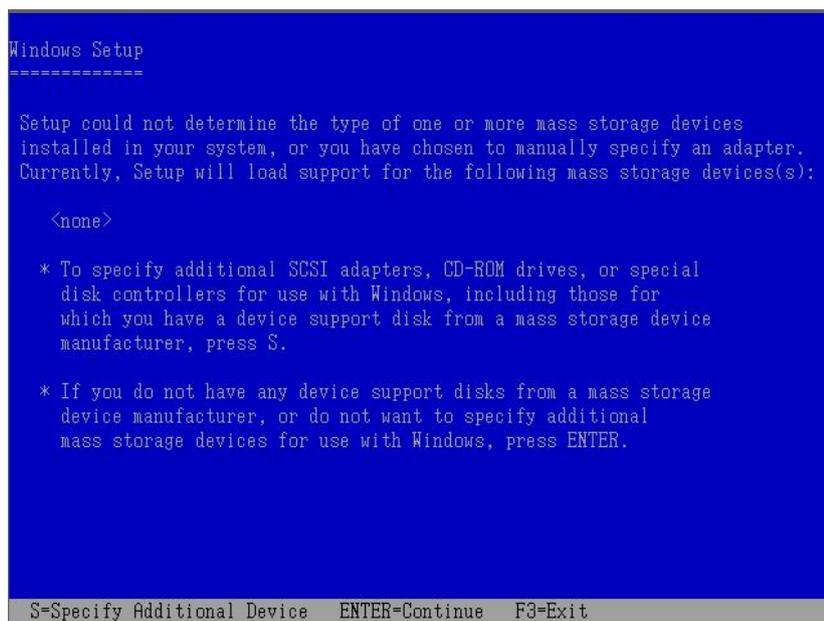
Windows Server 2003 R2 のセットアップ画面が表示されます。画面が表示されなかった場合は、<Enter>キーが正しく押されていません。システムの電源を ON し直してから始めてください。

6. 画面上部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に<F6>キーを押す。

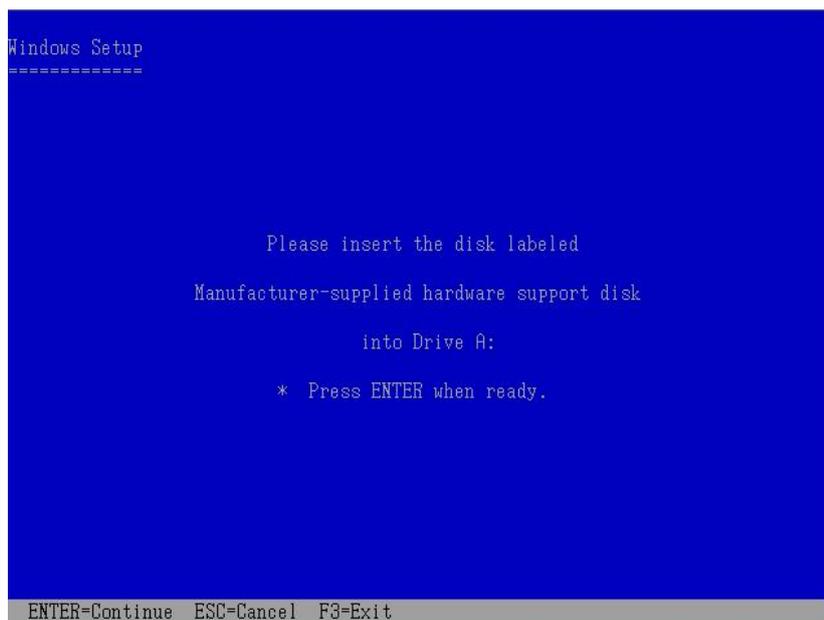
ヒント

- <F6>キーを押しても、このとき画面上には何の変化もあられません。
- USB フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

7. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。



以下のメッセージが表示されます。



8. N8460-001 外付 CD-ROM ドライブを使用する場合は、N8460-001 外付 CD-ROM ドライブのドライバ FD をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

USB CD-ROM ドライブのドライバが表示されます。

N8460-001 外付 CD-ROM ドライブを使用しない場合は、手順 11 まで進んでください。

9. 「USB driver」を選択し、<Enter>キーを押す。

10. 再度<S>キーを押す。

11. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSI アダプタリストが表示されます。

[Adaptec Ultra320 SCSI Cards(Win XP/Server 2003 IA-32)]を選択する。

以下のメッセージが表示されます。

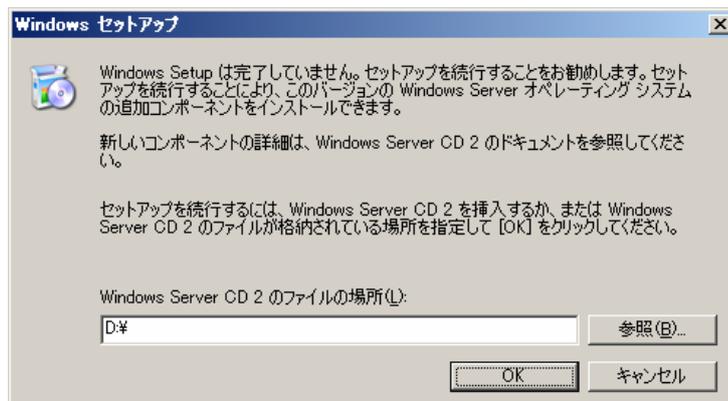
The driver you provided seems to be newer than the Windows default driver.
Windows already has a driver that you can use for "Adaptec Ultra320 SCSI Cards(Win XP/Server 2003 IA-32)".
Unless the device manufacture prefers that you use the driver on the floppy disk, you should use the driver in Windows.

12. <S>キーを押す。

重要 ここで<Enter>キーを押さないでください。
正しいドライバがインストールされなくなります。

13. Adaptec HostRAID を使用している場合は、再度<S>キーを押す。
Adaptec HostRAID を使用しない場合は、手順 16 まで進んでください。
14. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。
- SCSI アダプタのリストが表示されます。
15. [Adaptec HostRAID U320 Driver Ver1.02 For Windows 2000/XP/2003]を選択し、<Enter>キーを押す。
16. N8403-015 FibreChannel コントローラを使用している場合は、再度<S>キーを押す。
N8403-015 FibreChannel コントローラを使用しない場合は、手順 19 まで進んでください。
17. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。
- SCSI アダプタのリストが表示されます。
18. [Emulex LP1050 PCI-Fibre Channel HBA]を選択し、<Enter>キーを押す。
19. <Enter>キーを押す。
- 以降は、メッセージに従って作業を続けてください。
インストールの詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。
20. Windows Server 2003 インストール後、自動的に再起動する。

21. Windows Server 2003 R2 をインストールされた場合は、システムにログオンした後、[Windows セットアップ]画面が表示される。



- 重要**
- このとき、[Windows セットアップ]画面が表示されない場合がありますが、以降の手順に従って Microsoft Windows Server 2003 R2 DISC 2 を必ずインストールしてください。
 - 「システムのアップデート」を行った後でも、Microsoft Windows Server 2003 R2 DISC 2 のインストールは可能です。必ず Microsoft Windows Server 2003 R2 DISC 2 をインストールしてください。このとき、[Windows セットアップ]画面 は表示されませんのでご注意ください。

22. Windows Server 2003 R2 DISC 2 を CD-ROM ドライブにセットする。
設定内容を確認し[OK]をクリックする。
23. インストール終了後、Windows Server 2003 R2 DISC 2 を CD-ROM ドライブから取り出し、再起動する。
24. Windows Server 2003 R2 インストール終了後、「システム管理者（例：Administrator）」の権限を持ったユーザーでログオンしてください。
25. システムのアップデートを参照して地域情報レジストリ書き込みファイルの実行とシステムのアップデートを行う。（「3. システムのアップデート」（本書）参照）
26. ドライバのインストールと詳細設定を参照してドライバのインストールと詳細設定をする。（「4. ドライバのインストールと詳細設定」（本書）参照）
27. 障害処理のためのセットアップを参照しセットアップをする。（「障害処理のためのセットアップ」（本書）参照）
28. システム情報のバックアップ（装置添付のユーザズガイド参照）を参照しセットアップを完了してください。
29. USB CD-ROM ドライバのインストールの必要な場合は（N8460-001 外付 CD-ROM を使用する場合のみ・詳細は外付 CD-ROM ドライブに添付の説明書を参照）インストールをする。
30. N8405-013/020 内蔵フロッピーディスクドライブのドライバのインストールの必要な場合は（N8405-013/020 ブレード収納ユニットに実装する場合のみ・詳細はブレード収納ユニットユーザズガイドを参照）インストールをする。

■ Windows 2000 から Windows Server 2003 R2 へのアップグレードインストール

次の手順に従ってインストールします。

重要 Windows Server 2003 から Windows Server 2003 R2 へのアップグレードインストールの手順ではありません。

チェック Windows 2000 上で動作するソフトウェアプロダクトによっては、そのままでは Windows Server 2003 に対応していないものがあります。
現在ご使用されているソフトウェアプロダクトやアプリケーションが Windows Server 2003 に対応しているか必ず確認のうえ、対応をお願いいたします。

1. システムの電源を ON にし、Windows 2000 を起動する。

重要 Windows Server 2003 用の BIOS のアップデートが必要な場合は、アップデートを行ってください。BIOS のアップデートが必要かどうかは、『NEC8 番街』
<http://nec8.com>→[サポート情報]→[ダウンロード(Express5800)]を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。

ディスプレイ装置の画面に POST(Power On Self-Test)の実行内容が表示されます。
(「NEC」ロゴが表示された場合は<Esc>キーを押してください。)
しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> to enter SETUP

2. <F2>キーを押し、BIOS Setup メニューの「Advanced」→「Installed O/S」を「PnP O/S」に設定する。設定方法は機種によって異なりますので、詳しくは装置の BIOS ダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。
3. BIOS Setup メニューの「Exit」→「Save Changes & Exit」を選択し、[Yes]を選択してシステムを再起動させる。
4. 管理者権限を持ったユーザー(Administrator 等)でログオンする。
5. CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブに Windows Server 2003 CD-ROM をセットする。[実行する操作の選択]画面が表示されます。

ヒント [実行する操作の選択]画面が表示されない場合は、「<CD-ROM のドライブレター>: ¥SETUP.EXE」を実行してください。

6. [Windows Server 2003 をインストールする]を選択する。
アップグレードか新規インストールかを選択するダイアログボックスが表示されます。
7. 「アップグレード(推奨)」を選択し、[次へ]をクリックする。
メッセージに従って作業を続けてください。ファイルのコピー後、自動的に再起動します。

ヒント Windows Server 2003 CD-ROM は CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブにセットしたままでかまいません。

8. 画面下部に「Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID Controller...」が表示されている間に<F6>キーを押す。

- ヒント**
- <F6>キーを押しても、このとき画面上には何の変化もあられません。
 - USB フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき（フロッピーディスクへのアクセスがないとき）にキー入力をしてください。

9. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

```
Windows Setup
=====

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices
installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter.
Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s):

<none>

* To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special
disk controllers for use with Windows, including those for
which you have a device support disk from a mass storage device
manufacturer, press S.

* If you do not have any device support disks from a mass storage
device manufacturer, or do not want to specify additional
mass storage devices for use with Windows, press ENTER.

S=Specify Additional Device  ENTER=Continue  F3=Exit
```

以下のメッセージが表示されます。

```
Windows Setup
=====

Please insert the disk labeled
Manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:

* Press ENTER when ready.

ENTER=Continue  ESC=Cancel  F3=Exit
```

10. N8460-001 外付 CD-ROM ドライブを使用する場合は、N8460-001 外付 CD-ROM ドライブのドライバ FD をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

USB CD-ROM ドライブのドライバが表示されます。

N8460-001 外付 CD-ROM ドライブを使用しない場合は、手順 13 まで進んでください。

11. 「USB driver」を選択し、<Enter>キーを押す。
12. 再度<S>キーを押す。
13. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSI アダプタリストが表示されます。

[Adaptec Ultra320 SCSI Cards(Win XP/Server 2003 IA-32)]を選択する。

以下のメッセージが表示されます。

The driver you provided seems to be newer than the Windows default driver.
Windows already has a driver that you can use for "Adaptec Ultra320 SCSI Cards(Win XP/Server 2003 IA-32)".
Unless the device manufacture prefers that you use the driver on the floppy disk, you should use the driver in Windows.

14. <S>キーを押す。

重要

ここで<Enter>キーを押さないでください。
正しいドライバがインストールされなくなります。

15. Adaptec HostRAID を使用している場合は、再度<S>キーを押す。
Adaptec HostRAID を使用しない場合は、手順 18 まで進んでください。
16. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSI アダプタのリストが表示されます。
17. [Adaptec HostRAID U320 Driver Ver1.02 For Windows 2000/XP/2003]を選択し、<Enter>キーを押す。
18. N8403-015 FibreChannel コントローラを使用している場合は、再度<S>キーを押す。
N8403-015 FibreChannel コントローラを使用しない場合は、手順 21 まで進んでください。
19. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

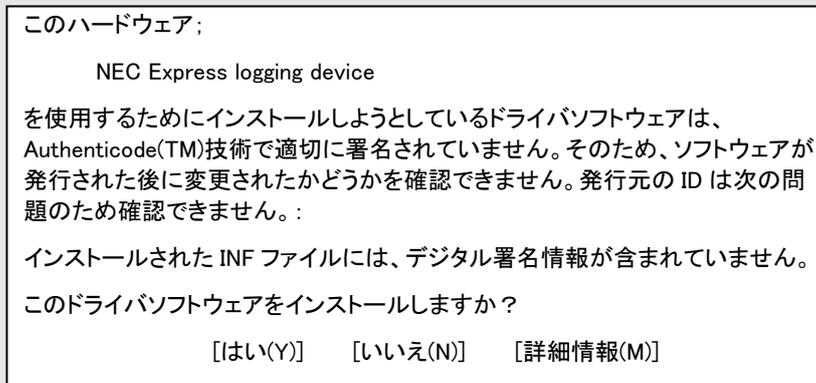
SCSI アダプタのリストが表示されます。

20. [Emulex LP1050 PCI-Fibre Channel HBA]を選択し、<Enter>キーを押す。

21. <Enter>キーを押す。

重要

- アップグレードインストール中で以下のようなポップアップメッセージが表示される場合があります。必ず[いいえ]をクリックして作業を進めてください。

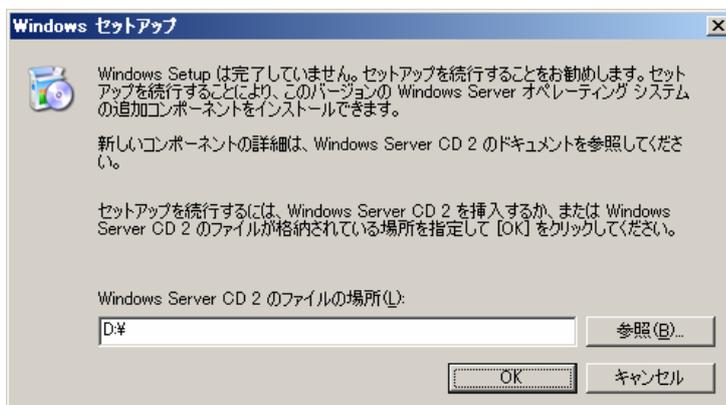


- NEC Express logging ドライバは、EXPRESSBUILDER を使った「システムのアップデート」で自動でインストールされます。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。

22. ファイルのコピーの後、自動的に再起動する。

23. Windows Server 2003 R2 をインストールされた場合は、システムにログオンした後、[Windows セットアップ]画面が表示される。



重要

- このとき、[Windows セットアップ]画面が表示されない場合がありますが、以降の手順に従って Microsoft Windows Server 2003 R2 DISC 2 を必ずインストールしてください。
- 「システムのアップデート」を行った後でも、Microsoft Windows Server 2003 R2 DISC 2 のインストールは可能です。必ず Microsoft Windows Server 2003 R2 DISC 2 をインストールしてください。このとき、[Windows セットアップ]画面 は表示されませんのでご注意ください。

24. Windows Server 2003 R2 DISC 2 を CD-ROM ドライブにセットする。
設定内容を確認し[OK]をクリックする。

25. インストール終了後、Windows Server 2003 R2 DISC 2 を CD-ROM ドライブから取り出し、再起動する。
26. Windows Server 2003 R2 インストール終了後、「システム管理者（例：Administrator）」の権限を持ったユーザーでログオンしてください。
27. **システムのアップデート**を参照して地域情報レジストリ書き込みファイルの実行とシステムのアップデートを行う。（「3. システムのアップデート」（本書）参照）
28. **ドライバのインストールと詳細設定**を参照してドライバのインストールと詳細設定をする。（「4. ドライバのインストールと詳細設定」（本書）参照）
29. **障害処理のためのセットアップ**を参照しセットアップをする。（「障害処理のためのセットアップ」（本書）参照）
30. **システム情報のバックアップ**（装置添付のユーザーズガイド参照）を参照しセットアップを完了してください。
31. **USB CD-ROM ドライバのインストール**の必要な場合は（N8460-001 外付 CD-ROM を使用する場合のみ・詳細は外付 CD-ROM ドライブに添付の説明書を参照）インストールをする。
32. **N8405-013/020 内蔵フロッピーディスクドライブのドライバのインストール**の必要な場合は（N8405-013/020 ブレード収納ユニットに実装する場合のみ・詳細はブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照）インストールをする。

2 管理用リモートデスクトップについて

Windows Server 2003 R2 をご使用の場合に必要な管理用リモートデスクトップの設定について説明します。

重要 管理用リモートデスクトップを使用するのに、有償のターミナルサーバークライアントアクセスライセンスは必要ありません。管理用リモートデスクトップは、最大2つの同時接続が可能です。

チェック カスタムインストールモデルをご購入の場合は、管理用リモートデスクトップの設定はありません。

■ Windows Server 2003 R2 の場合

次の手順にしたがって設定します。

重要 管理用リモートデスクトップを使用するためには、administrator にパスワードの設定が必要です。

1. スタートメニューから[コントロールパネル] を選び、[システム]をクリックする。
2. [リモート] タブを選択し、[リモートデスクトップ]項目の[このコンピュータにユーザーがリモートで接続することを許可する] をチェック し、[OK] をクリックする。

3 システムのアップデート

Windows Server 2003 R2 のインストール後、必ず以下の手順で地域情報レジストリ書き込みファイル(JAPAN.REG)の実行と、システムのアップデートを行ってください。

NEC 差分モジュールをダウンロードしていない場合は、「Windows Server 2003 R2 をインストールするための準備」の「NEC 差分モジュールのダウンロード」を参照し、ダウンロードしてください。

重要 次の場合も必ずシステムのアップデートをしてください。

- システム構成を変更した場合
(内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合。システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は[いいえ]をクリックし、システムをアップデートしてください。)
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合

1. 管理者権限のあるアカウント(administrator 等)で、システムにログオンする。

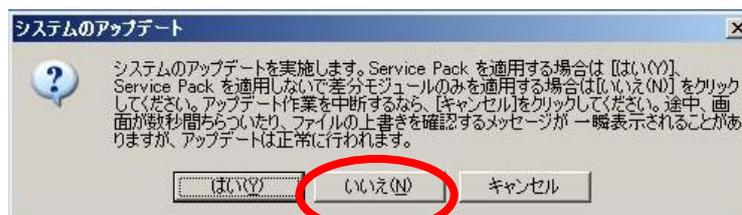
2. 地域情報レジストリ書き込みファイル **JAPAN.REG** を実行する。

書き込み確認のメッセージが表示されるので[はい]を選択する。

3. <展開先フォルダ名>¥WINNT¥DOTNET¥UPDATE.VBS を実行する。
セットアップメッセージが表示されます。

画面のメッセージにしたがって作業を進めてください。

4. 以下のメッセージが表示されたら、[いいえ]をクリックする。
差分モジュールを適用します。



5. 以下のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックしてシステムを再起動させる。



4 ドライバのインストールと詳細設定

本装置標準装備の各種ドライバのインストールとセットアップを行います。
ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについてはドライバに添付の説明書を参照してください。

■ PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。
PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- － アダプタ詳細情報の確認
- － ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- － Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、システムに耐障害性に優れた環境を提供し、装置とスイッチ間のスループットを向上させることができます。
このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. エクスプローラを起動する。

[標準のスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、
[エクスプローラ]をクリックする。

2. 「PROSET.EXE」を実行する。
「<展開先フォルダ名>:\\$WINNT\$\DOTNET\BC5\PROSET\WS03XP32」
ディレクトリ内の「PROSET.EXE」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード]が起動します。

3. [次へ]をクリックする。
4. [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [標準]を選択し、[次へ]をクリックする。
6. [インストール]をクリックする。
[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。
7. [完了]をクリックする。
8. システムを再起動させる。

以上で完了です。

■ ネットワークアダプタの詳細設定

標準装備の2つのネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、それぞれ転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

ヒント サービスの追加で、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、ユーザーズガイドを参照してください。

<PROSetがインストールされていない場合>

1. 「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続] (Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2) をクリックする。
- (2) [プロパティ]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- (2) [ローカルエリア接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2) を右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。

2. [構成]をクリックする。

ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。

3. [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。

重要 Wake On LAN 機能を使用する場合は[自動検出(Auto)]に設定してください。

4. ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<PROSetがインストールされている場合>

1. [有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[コントロールパネル]→[有線用Intel(R) PROSet]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。
- (2) [有線用Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。
2. リスト中の[Intel(R) PRO/1000MT Dual Port Network Connection]をクリックして選択する。
3. [速度]タブをクリックし、リンク速度とデュプレックス設定をHUBの設定値と同じ値に設定する。

重要 Wake On LAN 機能を使用する場合は[自動検出(Auto)]に設定してください。

4. リスト中の[Intel(R) PRO/1000MT Dual Port Network Connection #2]をクリックして選択する。
5. [速度]タブをクリックし、リンク速度とデュプレックス設定をHUBの設定値と同じ値に設定する。

重要 Wake On LAN 機能を使用する場合は[自動検出(Auto)]に設定してください。

6. [有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスの[適用]をクリックし、[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<再インストール>

ネットワークドライバは、自動的にインストールされます。手動でのインストールを行う必要はありません。

■ FibreChannelコントローラ(N8403-015) を追加接続する場合

システムにFibreChannelコントローラ(N8403-015)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされません。システムのアップデートを実施する事でドライバが適用されます。

ヒント FibreChannel コントローラ(N8403-015)は Windows 2000 での接続はサポートしていません。

■ オプションのネットワークのドライバ

オプションのネットワークボード(N8403-013)を使用する場合について説明します。

「N8403-013」下記の手順を参考の上、NEC差分モジュールに格納されているドライバをインストールしてください。

「N8403-013」の場合

「<展開先フォルダ名>: ¥WINNT¥DOTNET¥LAN¥BC5¥PRO1000¥WS03XP32」

<オプションボード用ネットワークドライバのインストール>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [ネットワークアダプタ]→[Intel(R) PRO/1000~]をダブルクリックする。
[Intel(R) PRO/1000~]ダイアログボックスが表示されます。

ヒント [?その他のデバイス]→[?イーサネットコントローラ]がある場合は
[?イーサネットコントローラ]をダブルクリックしてください。

3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。
[ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。
4. [一覧または特定の場所からインストールする(詳細)]を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ、

「N8403-013」の場合

「<展開先フォルダ名>: ¥WINNT¥DOTNET¥BC5¥PRO1000¥WS03XP32」

と入力し、[次へ]をクリックする。

ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。
しばらくすると[ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。

6. [完了]をクリックする。

以上で完了です。

■ グラフィックスアクセラレータ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、システムのアップデート時に自動的にインストールされます。

■ CD-ROM・DVD-ROMドライバ

N8460-001外付CD-ROMドライブについてはWindowsをインストール後に、ドライバをインストールする必要があります。詳細な手順はN8460-001外付CD-ROMドライブのユーザーズガイドを参照してください。N8460-003 外付CD-ROMドライブについては、ドライバをインストールする必要はありません。N8405-013ブレード収納ユニット内蔵のCD-ROMドライブおよびN8405-020ブレード収納ユニット内蔵のDVD-ROMドライブについても、ドライバをインストールする必要はありません。

■ フロッピーディスクドライブドライバ

N8405-013およびN8405-020のブレード収納ユニットに内蔵のフロッピーディスクドライブを使用する場合は、ブレード収納ユニット添付のCD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

■アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは、複数のアダプタでグループを作り、サーバから送受信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スプールパケットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。

AFT/ALB機能を使用する場合は以下の手順に従ってセットアップしてください。

1. [コントロールパネル]ダイアログボックスで、[有線用Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。

[有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスが表示されます。

2. リスト中の「Intel(R) PRO/1000MT Dual Port Network Connection」にマウスポインタを合わせ、右クリックする。

プルダウンメニューが表示されます。

3. [チームに追加]を選択し、[新規チームを作成]をクリックする。

[チーム化ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

4. 「アダプタ フォルト トレランス」または「アダプティブ ロード バランシング」を選択して[次へ]をクリックする。

5. [次へ]をクリックする。

6. チームにするアダプタをチェックして[次へ]をクリックする。

7. [完了]をクリックする。

[有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスに戻ります。

8. [適用]をクリックし、[OK]をクリックする。

9. システムを再起動させる。

重要

- AFT/ALB のセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。
- アダプタ フォルト トレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用できますが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一 LAN(同一ネットワーク)上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。
- アダプティブ ロード バランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブにのみ接続できます。

■ Boot.iniファイルで使用可能なスイッチオプションについて

Boot.iniファイルを編集することで、様々なスイッチオプションを使用することができます。使用可能なオプションについては、以下を参照してください。

● サポート技術情報-KB833721

Windows XPおよびWindows Server 2003のBoot.iniファイルで使用可能なスイッチオプション

4GBを超えるメモリを搭載できる装置では /PAE オプションの設定を行うことで 4GB を超えるメモリを使用できるようになります。

/PAE オプションは、サポートされている製品が限定されています。

以下のマイクロソフトサポート技術情報を参照して確認してください。

● サポート技術情報-KB291988

4GB RAMチューニング機能と物理アドレス拡張のスイッチの説明

以下に編集例を示します。

1. スタートメニューから[設定] をポイントして、[コントロール パネル]をクリックします。
2. 「コントロール パネル」から、[システム]アイコンをダブルクリックします。
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
3. [詳細設定]タブから「起動と回復」にある[設定]をクリックします。
4. 「起動と回復」画面にある「起動システム」の[編集]をクリックし、「Boot.ini」を開きます。
5. 「Boot.ini」ファイルの[operating systems]に“/PAE”を追加し、上書き保存してください。

<Boot.ini ファイルの例>

```
[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)¥WINDOWS
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)¥WINDOWS="Windows Server 2003" /fastdetect
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)¥WINDOWS="Windows Server 2003, PAE" /
C:¥CMDCONS¥BOOTSECT.DAT="Microsoft Windows 回復コンソール" /cmdcons
```

以上でBoot.iniへの編集は終了です。

ヒント 「起動/回復」画面にある「既定のオペレーティングシステム」で選択したエントリから自動的に起動するように設定することができます。

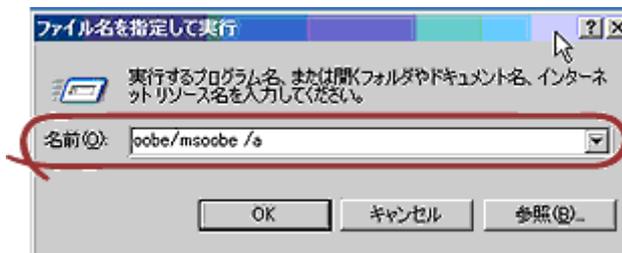
ライセンス認証の手続きについて

Windows Server 2003 R2 をご使用いただくためには、Windows Server 2003 R2 のライセンス認証の手続きが必要です。ライセンス認証の手続きを次に示します。

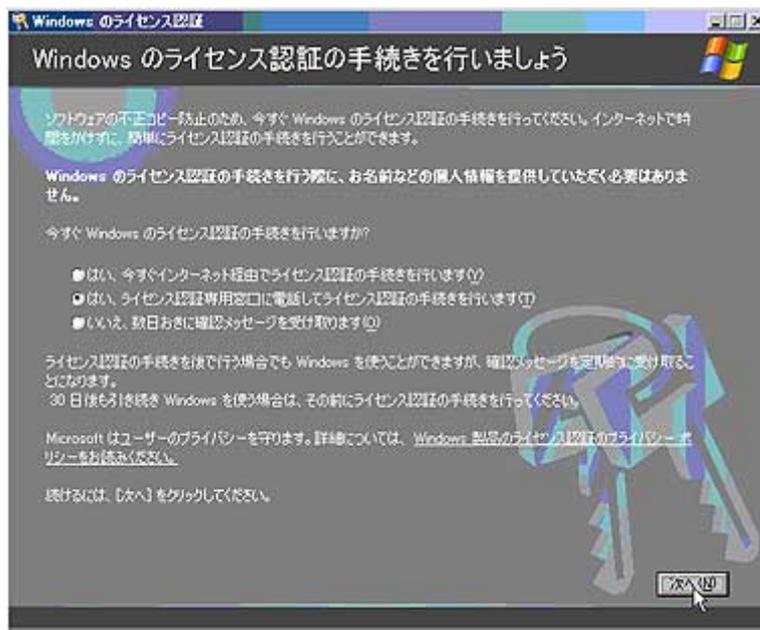
ヒント バックアップ CD-ROM の Windows Server 2003 R2 をご使用の場合は、手続きの必要はありません。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
[名前(O):]に以下を入力し[OK]をクリックする。

oobe/msoobe /a



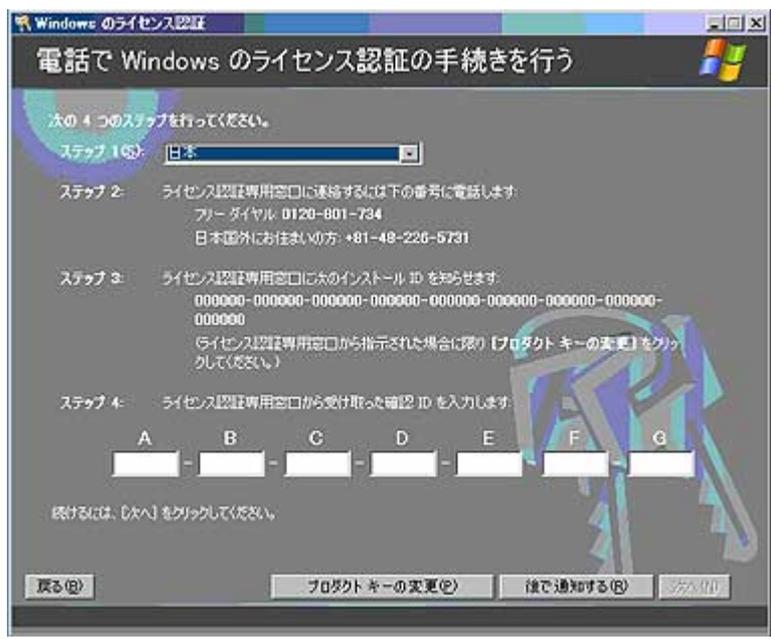
2. 以下のメッセージが表示されたら、[次へ]をクリックする。



以下のメッセージが表示されます。

新しいインストール ID を生成しています...

- 以下のメッセージに従って、ライセンス認証の手続きを行う。



障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

■ メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本体内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

- 重要**
- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
 - ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択し、[システム]をクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [詳細設定]タブをクリックする。
3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。
4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>
D:¥MEMORY.DMP

- ヒント**
- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
 - 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB 以上(メモリサイズが 2GB を超える場合は、2048MB+12MB 以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
 - メモリ増設により搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。
6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。
7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。
8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を推奨値以上に変更し、[設定]をクリックする。

- 重要**
- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
 - 「推奨値」については、「作成するパーティションサイズについて(7ページ)」を参照してください。
 - メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

■ ワトソン博士の設定

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。
[Windows ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。
「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

チェック ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

ヒント 「クラッシュダンプファイル」は Windows Debugger で読むことのできるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ダンプシンボルテーブル
- すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- 既存のログファイルに追加
- クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

トラブルシューティング

Express5800 シリーズが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容にしたがって Express5800 シリーズをチェックしてください。

リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理にしたがってください。それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

なお、ここに上げている症状は Windows Server 2003 R2 にて新たに発生するトラブルシューティングです。その他の症状につきましては、お手持ちのユーザズガイドを参照してください。

 Windows Server 2003 R2 の運用中、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース : IPMIDRV
種類 : エラー
イベント ID : 1001

説明 : IPMI デバイスドライバは、IPMI BMC デバイスがシステムでサポートされているかどうか判断しようとしていました。このドライバは、SMBIOS の Type38 レコードを検索できることで IPMI BMC を検出しようとしていましたが、レコードが見つからないか、レコードにデバイスドライバのバージョンとの互換性がありませんでした。SMBIOS の Type 38 レコードが見つかっている場合は、イベントの Dump Date フィールドにこのレコードがバイナリ表示されます。

→ Windows Server 2003 R2 において提供されている「ハードウェアの管理」を利用している場合、上記のイベントログが登録されます。詳細な内容については、下記サイトにある「Windows Server 2003 R2 で提供される「ハードウェアの管理」利用の手引き」参照してください。

[NEC 8 番街:テクニカルインフォメーション]

<http://www.express.nec.co.jp/care/techinfo/techinfo.html>

 Telnet サービスがインストールされていない

コンピュータ名を 14 文字以下にして、<Telnet サービスのインストール手順>に従って Telnet サービスをインストールしてください。

<Telnet サービスのインストール手順>

1. スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
2. [名前]ボックスに「tlntsvr /service」と入力し、[OK]をクリックする。
3. スタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を開き、サービスの一覧に Telnet サービスが登録されていることを確認する。

→ Telnet サービスのインストール後は、コンピュータ名を 15 文字以上に設定しても問題ありません。



運用中に、システムイベントログに次のような内容のエラー、および警告が記録される

イベント ID : 11
ソース : IANSMiniport
種類 : 警告
分類 : なし
説明 : 次のアダプタリンクは接続されていません。
Intel(R)PRO/1000 ~

イベント ID : 13
ソース : IANSMiniport
種類 : 警告
分類 : なし
説明 : Intel(R)PRO/1000 ~ がチームで無効化されました。

イベント ID : 16
ソース : IANSMiniport
種類 : エラー
分類 : なし
説明 : チーム#0、最後のアダプタはリンクを失いました。
ネットワークの接続が失われました。

イベント ID : 22
ソース : IANSMiniport
種類 : 警告
分類 : なし
説明 : ライマリアダプタはプローブを検出できませんでした。
Intel(R)PRO/1000 ~
原因でチームが分割されている可能性があります。

→ Teaming の設定をした場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LAN ドライバの動作上問題ありません。